

第12回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第12回環境保全協議会では、「工事の進捗状況について報告」「前回までの協議会における指導事項と対応」「平成25年度環境影響調査の報告」「付着藻類への影響検討」「今後の環境調査及び工事の状況」について詳細を説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。

記

1 日 時 平成25年11月21日（木） 13:30～15:30

2 場 所 最上総合支庁5階講堂

3 出席者 10名（12名中2名欠席）

原委員長、伊藤準悦委員、今井委員、梅田委員、萱場委員、菊池委員
柴田委員、柳原委員、矢野委員、横倉委員（欠席：伊藤一雄委員、野口委員）

4 各委員からの主な御意見

- ・横倉委員 【重要種の見直し】
 - ・環境省レッドリストの見直しによる新たな重要種は、本県では一般的な種であり、本県レッドデータブックにおいて指定されるような種ではない。ダム事業による影響はないと考えて良い。
- ・梅田委員 【濁度観測】
 - ・降水量と水位について、現場状況の把握に努めたほうが良い。流量と濁度の関係について整理するとわかりやすい。
- ・今井委員 【猛禽類調査】
 - ・一般的にクマタカは、造巣するも餌動物が少なく、繁殖に至らないことが多くなってきている。
 - ・サンバは現場の直近の営巣林で繁殖が成功しており、工事の影響は無いと言える。
 - ・オオタカは同じ営巣林を使う期間が5～10年程度であり、事業地付近から営巣林を移した可能性がある。
- ・原委員長 【ハコネサンショウウオ調査】
 - ・工事中に産卵場などがみつかった場合には、成功事例を参考に対策を検討すると良い。
- ・横倉委員 【ワタナベカレハ調査】
 - ・工事前と確認数が変わらず影響が無かったとのことで良かった。ワタナベカレハは山形県レッドデータブックの次回改訂では除外される予定である。以前確認されたイチゴナミシヤクは、重要種指定される予定であるため、イチゴナミシヤクについての調査を検討したほうが良い。
- ・原委員長 【植物重要種調査】
 - ・あと1～2年、モニタリングや新たな移植先の検討など、対策を継続して実施したほうが良い。
- ・萱場委員 【付着藻類調査】
 - ・平成25年度の調査結果は、例年同様であり、問題ないと判断できる。【河床状態調査】
 - ・ダム供用後に比較対象と出来るように事前調査として継続的に実施すると良い。【付着藻類への影響検討】
 - ・剥離、生育基盤、濁りについて総合的な検討の結果、アユの採餌環境に対するダムの影響はほとんどないものと考えられる。

【開催概況】

